

黒潮町

工房ポレポレ はーと・らいふ村



### 『無駄の無い木の工房』

- 活動時期 →通年
  - 活動場所 →作業場、畑、田んぼ、町内外
  - 主な活動メンバー：千葉 洋さん
- 【ホームページ】  
<http://heartlife.hp.infoseek.co.jp/>

## ■お箸、器、米、麦、野菜、家具、衣服…すべて自分の手にかけたもので暮らしたい

### (取り組み内容)

#### ◆無駄なく使いきる

小さい頃アイスの棒を集めてマリオネットを作った経験のある千葉さん。今の手仕事もその延長にある。端材を捨てずに作っていく椅子や机。家具づくりやお箸づくりで余った材はアクセサリーや積み木、手のひらサイズのミニチュアアイスに。また余れば最後はストーブの薪に。そして灰は畑に、洗いものにとすべて無駄なく使い切る。

#### ◆手にかけたものに囲まれた暮らし

自分で作ったお箸でご飯を食べることには、味わい深さ、楽しさ、豊かさがある。お箸にはじまり、器、食べるもの(米、野菜、コーヒーなど)そして家具、着るものに至るまですべて自分の手のかかった物たちの中で暮らしたいという思いから、ここ(黒潮町馬荷)での生活を始め、自給自足の生活を実践している。手間暇かかってそのすべての過程が楽しい、そしておいしい。それがすべて。衣食住体験教室も行っている。

#### ◆マイ箸づくり教室

マイ箸づくり教室では、実際に木を手で触れて削ることによって、木のことを知ってもらおう。たとえ上手にできてもできなくても、その達成感や悔しさが、子どもたちの記憶のどこかに、何かにつながる経験として残って欲しいと願っている。

### (成果)

H19年「環境活動支援センターえこらぼ」にマイ箸づくりで講師登録してから、H20年は30件近く講師の依頼、700人近くがマイ箸を作っている。



土佐ヒノキの端材などを  
利用して作っていく椅子



余った材はアクセサリーに  
積み木や手のひらサイズのおもちゃアイスに  
最後はストーブの薪に  
そして、灰は畑に、洗剤に

( (うれしかったお話) )

マイ箸づくり教室で自分で作ったお箸を使うようになった子どもが、片づけを一切しなかったのに箸だけは必ず自分で洗って片付けるようになった話を聞いた。

### 【マイ箸づくり教室の流れ】

- ①材料は自身で間伐、もしくは四万十市の材木屋さんより調達  
(ヒノキの間伐材を使用)
- ②箸の長さまでは千葉さんが下準備
- ③ ②をみんなに削ってもらう
- ④柿渋を塗る。
- ⑤最後にネームなどを焼きペンで入れる。

### ※マイハシづくり教室の開催

材料費 300 円 / 1 人  
講師料、交通費は相談で。

### ◆バットの廃物利用 (一本のバットから 10 善のお箸)

バットは 60 年 (以上) 生のアオダモやメープルなど丈夫な木でできている。高知ファインティングドックスより、割れたバットを提供いただき、お箸の材料としている。袋は四万十市のほたる工房等にお願ひし、美しい柄のハギシで作成 (障害者の自立支援)

一膳 1500 円 ~ 1800 円で販売し、収益の一部を植林事業に充てている。

### ◆風の谷 環境の森づくり

H20 年 10 月、千葉さん所有の休耕田 (約 1 反) に広葉樹 (アオダモ、ケヤキ、クヌギ、梅など) を植林する。20 名参加。草刈、整地、山の中で料理 (むかご、竹ご飯) などのイベントをして準備。梅は収穫できる楽しみが、クヌギは約 15 年後シイタケの原木になるという楽しみがある。

### ◆衣食住体験教室

エコクッキング (ゴミのほとんど出ない調理、田んぼ、畑の現場見学から) / 陶芸教室 / パン教室 (小麦をつくることから。植えて、天日干しをして、ついて、粉にする。パンは天然酵母で発酵) 一閑張り教室 / 家具づくり / 草木染め、などの体験教室を行っている。

### ■取り組みに対する想い

手間暇かかって、そのすべての過程が楽しい。それがすべて。安くて手早いものではなく、自分の手のかかった本当のモノから本当の豊かさを感じる。それがいいかどうかは十人十色。この暮らしに反応する人が結果的に集まると思う。理想とするのは、身の回りのものは何でも作り、治すことができる、物々交換をしていた時代。



箸づくり材料



折れたバットがマイ箸に



手間暇かかって、自分の手のかかった“ホンモノ”から本当の豊かさを感じる



